

「衣・食・遊」でつながる未来

—若年層主体の異文化交流と住みやすいまちづくり—

八戸学院大学 楊ゼミ

1. 事業の背景と目的

背景：グローバル化の進展により、異文化コミュニケーションの重要性は日常的なものとなっている。一方、若年層における国際交流への関与の低さが課題である。

目的：①地域の将来を担う若年層の異文化理解力を高める

②地域住民と外国人住民の双方にとって持続可能な「住みやすい」共生社会の基盤を構築する

2. 衣・食・遊による異文化交流事業の実施と考察

【実施日・対象・テーマ】

- ・9月26日（金） 八戸東高等学校 インドネシアの遊びを知ろう
- ・11月7日（金） 八戸北高等学校 キンパ作り体験
- ・11月28日（金） 八戸高等学校 中国文化体験

【参加人数】 合計 52 名

【実施方法】 レクチャーと文化体験を組み合わせた形式で行った

【考 察】

- ① 過去に異文化交流イベントに参加した学生は、アンケート回答者 52 名中 15 名であり、全体の約 29%にとどまっている。この結果から、多くの学生にとって異文化交流は必ずしも身近な経験ではないことが明らかとなった。
- ② 一方、今回の交流活動を通して、今後の異文化交流活動に「参加したい（とても・まあまあ）」と回答した学生は、52 名中 51 名にのぼった。

以上の結果から、これまで異文化交流の経験が少なかった学生であっても、体験型の活動を通じて、今後の参加意欲が大きく高まることが示唆される。

3. 事業の効果

本事業の実施後、「今後も異文化交流活動に参加したい」と回答した学生が 52 名中 51 名に達したことから、本活動は若年層の異文化交流への関心および参加意欲を高める効果を有していたと考えられる。特に、「衣・食・遊」という身近なテーマを用いたことが、初めて国際交流に参加する学生にとって心理的ハードルを下げる要因となった。

4. 課題と今後の予定

課題：高等学校では年間カリキュラムがあらかじめ設定されているため、実施時期や時間調整に制約があった。

今後の予定：本事業で得られた知見を活かし、地域イベントや継続的な交流活動への展開を検討することで、若年層の異文化交流への関与をより一層促進していきたい。